



西角慎大朗 議員
鈴木誠弘 議員
中井小

山 田方谷先生を日本中の 人に知ってもらいたい

僕たちの住んでいる中井町は山田方谷先生が生まれた所です。

方谷先生は備中松山藩のたくさんのお金を返したと勉強しました。ニュースを聞いてみると、今の日本もたくさん借金があるそうです。だから、方谷先生の事を日本のみんなに知ってもらいたい、日本の借金をどうするかを考えてほしいと思います。

高梁市を知ってもらうためと、日本を救うためにもっと方谷先生をみんなに広めてほしいと思います。

方谷先生をもっと広く知ってもらうために、高梁市が今やっていることや、今後、する予定を教えてくださいと思います。

福 地の土地や空き家を利用 した観光地に

私たちの住んでいる福地は、山に囲まれ、周辺には田や畑がある、自然豊かな所です。その反面、高齢化が進み、若い人が減ってきています。そのため空き家や耕作されていない田畑が増えています。

そこで、空き家や荒廃した土地を利用して温泉施設や郷土料理の飲食店やお土産屋が並び、プチ観光スポットをつくってほしいと思います。

訪れる人が増えると、にぎやかになり、福地に戻ってくる人や移り住む人が増え、子どもも増えて活気がある町になると思います。福地の空き家や荒廃した土地を、移り住める住宅に整備すればなおさら増えると思います。

住田英司 議員
富弥未沙 議員
福地小



方 谷先生について勉強をしている と聞いて心強く思います。

市は平成23年度に方谷さんを広める会をつくり、全国に方谷さんを知ってもらう活動を進めています。市内の全部の学校でも、方谷さんを勉強しています。方谷さんだけでなく、高梁市や地域の歴史をしっかりと学んでほしいと思っています。それから、全国に広める活動として、NHKの大河ドラマに取り上げてもらうと、100万人の署名を目標に集めています。今、73万人の署名が集っています。

大河ドラマが実現すると、全国の人が方谷さんを知ってくれます。方谷さんが借金を返済し、蓄財に変えたというのを学んで、少しでも日本が良くなるようにと願っています。そして、たくさんの方が高梁市や中井町に来るようになると思います。その時に、市民の皆さんが、方谷さんのことについて、お客さんに尋ねられた時、答えられないといけません。

全国に広めていく活動も大事ですが、私たち高梁市民が、方谷さんのことを理解をする活動を進めて、お客さんをしっかりお迎えできるような取り組みを一つずつ進めていきたいと思っています。「答弁・近藤隆則市長」

プ チ観光スポットは、市内のいろ いろな所でできるのではないかと 思います。

福地地区は、ホテルでの町づくりを立派にされています。備中神楽を作った西林国橋の生まれた所でもあります。神楽も観光の一つにできるのではないかと思います。郷土料理、創作料理などもよいと思います。

福地に行かなければ食べられない、見られない、というものを地域の人に知ってほしいと思います。いろんな人の意見を聞いて、何がいかいということをしつかり考えてほしいと思います。行政もお手伝いをします。こういうお店を作りたい、復活させたいというときは、支援制度がありますから、ぜひ活用してください。

このような提案は、すばらしく夢のある提案です。小学校の友だち、地域の皆さん、お父さんやお母さんとも話をして、キラリと光るものができるから、人は訪れてくれると思いますし、高梁市の他の観光地に来た人が、福地にも寄ってみようということになると思います。

このことは、行政だけではできませんから、地域の皆さんたちと一緒に頑張って、取り組んでいきたいと思っています。「答弁・近藤隆則市長」



赤木瑠南 議員
小坂力 議員
落台小

タ ブレット端末を学校に導 入してほしい

私たちの周りでは、持ち運びがしやすく使い方が簡単なタブレット端末が普及しています。タブレット端末が学校にあると日々の授業でより深く、より自主的に学習できると思います。便利で使いやすく、学習にも役立つタブレット端末を小・中学校に導入してください。

タブレット端末は、音声検索、ビデオ通話、写真を撮る・見る、プレゼンテーションをするなど、学習で使えるようなことが多くあります。また、使用についてのルールやマナーを身に付ければ、さらなる情報化社会にも生きていく力になるはずだと思います。

高 梁市の人口がこれ以上減 らないために

高梁市の人口が減っているという話を聞きます。子どもの数が減り、高齢化が進んでいます。私たちの住む西山地区も同じで、西山小学校は3月で閉校になってしまいます。

私たちが大人になる将来、高梁市がどうなっているか心配です。これから高梁市が元気で活気のある市であってほしいと願っています。

そのためには、人口が増えないまでも、これ以上減少しないようにしなければいけないと思います。市では、人口減少をどのように考えているのか教えてください。

土屋宗大 議員
野村玲司 議員
西山小



高 度情報化社会に対応するために も、情報機器を学校に整備し て、先生や児童生徒の皆さんが、I CTの活用を向上させていかなければ ならないと考えています。

タブレット端末については、昨年、川上中学校に、先生用の1台を整備して研究してもらい、タブレットの効果を確認できました。先生と児童生徒、学校間の交流などもでき、他校の友達とも意見交換ができるようになります。さらに活用の範囲は広がっていきます。

一方で、外部と接触することになりますから、インターネットの安全面をよく考えていかなければなりませんし、便利なものも使い方次第ですから、使用ルールやマナーも併せて、向上していかなければなりません。

タブレット端末は、反復学習をしたり、調べ学習をするにはとても効果的です。今までのノートと鉛筆を使って書き、辞書を使って調べる学習も大切ですが、ノートと鉛筆を使った学習と、タブレットなどを使用する学習のバランスを考えながら、モラルを身につけることも含め、より教育効果が高まるように、タブレット端末の整備を検討していきたいと思っています。「答弁・平田守教育長」

人 口の減少が進んでいくと、自分 たちが住んでいる地域の維持が できなくなる可能性があります。

これを防ぐためには、高梁市内に、できるだけ多くの人に住んでもらうことが重要なのではないかと思います。

移住してきた人が家を建てたりする場合に、建築費を助成したり、結婚した若いカップルがアパートに住む場合には、家賃を助成したりしています。医療費は、18歳まで無料です。高梁市は子育てがしやすいという環境づくりを一生懸命やっています。

空き家の情報があれば、情報を市に提供してもらって、市から全国へ発信しています。都会から移り住んでくる人は、見ず知らずの土地です。ですから、行政もしっかりと支援をします。地域の皆さんがそういった人を温かくお迎えしてもらおうことが、受け入れのために大切なことだと思っています。

9月から、高梁に移住したい人の相談を受ける、専門の相談員を配置してお手伝いを積極的に行っています。そういった活動によって、高梁市に興味を持ってもらい、移り住んでもらうことに、大きく期待をしています。「答弁・近藤隆則市長」